

貸借対照表

2021年 3月 31日 現在

株式会社 JALブランドコミュニケーション

(単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【 流動資産 】	【 4,735,603,597 】	【 流動負債 】	【 562,167,318 】
現金・預金	314,738,755	営業未払金	364,313,956
営業未収入金	782,093,169	未払金	1,573,147
商品	13,558,402	未払費用	4,750,848
仕掛品	9,020,230	未払個別帰属額	121,378,172
貯蔵品	201,795	未払法人税等	14,234,800
前払金	63,375,031	未払事業所税	2,309,600
前払費用	5,553,110	未払消費税等	2,000,165
短期貸付金	3,531,403,793	預り金	8,932,339
立替金	15,659,312	その他流動負債	42,674,291
【 固定資産 】	【 113,043,022 】	【 固定負債 】	【 184,487,079 】
(有形固定資産)	(27,451,615)	退職給付引当金	184,487,079
建物	26,207,939		
工具器具備品	25,341,101	負債の部合計	746,654,397
減価償却累計額	△ 24,097,425	純 資 産 の 部	
(無形固定資産)	(12,760,468)	株主資本	
ソフトウェア	12,760,468	【 資本金 】	【 100,000,000 】
(投資その他の資産)	(72,830,939)	【 利益剰余金 】	【 4,001,992,222 】
関係会社株式	200,000	利益準備金	25,000,000
長期繰延税金資産	69,588,939	繰越利益剰余金	3,976,992,222
その他投資	3,042,000	純資産の部合計	4,101,992,222
資産の部合計	4,848,646,619	負債・純資産の部合計	4,848,646,619

個別注記表

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関連会社株式・・・移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品・貯蔵品・仕掛品・・・最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切り下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物および2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法）を採用しております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における自己都合要支給額を計上しております。

4. 収益および費用の計上基準

(1) 収益の計上基準

出版物、機内エンターテインメント、Web・アプリ等の企画・制作・販売、及び広告営業等を行い、役務提供完了の時点で収益を計上しております。

(2) 費用の計上基準

費用は、発生主義の原則に従い、発生基準により計上しております。

5. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

(1) 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 資産除去債務に関する会計基準の適用

当社は、賃貸借契約に基づき使用する事務所等について、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する賃貸資産の使用期限が明確でなく、現在のところ移転等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることが出来ません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。